

## 平成 30 年度 第 1 回香南市産業振興計画策定委員会 【議事録】

- 日時 : 平成 30 年 6 月 5 日 (火) 10:00~12:00
- 場所 : 天然色劇場 リハーサル室
- 出席者 : 37 名 (策定委員 15 人 ・ 市職員 16 人 ・ 傍聴 6 人)

### 1. 開催目的

- ・ 分野別部会長をはじめ、有識者や産業関係団体の代表者に出席いただき、分野を超えた横断的な議論を交わす。

### 2. 議 題

- ・ 各分野における平成 29 年度の実績及び各部会からの報告について

### 3. 内 容

- ・ 担当課及び各部会長より報告を行った後、議論。

### 4. 意見・提案等

## ◇ 開 会

## ◇ 田内副市長挨拶

## ◇ 新委員への委嘱式

## ◇ 議 事

「各分野における平成 29 年度の実績及び各部会からの報告について」  
(委員長挨拶 及び 進行)

- ・ 産業振興計画についてのポイントは 3 つある。  
①「首長の力強いリーダーシップ」、②「PDCA を回し続けている事」③「5W1H をはっきりとさせ、責任を明確にして進めていること」につきる。
- ・ 香南市の産業振興計画については、PDCA, 5W1H が見え始めている。これを進めていき、「改善が必要な部分は改善をする」、また、「新規の取組が必要な部分には積極的に、想像力に富む、意欲的な新規施策を委員の皆様からご発案いただきたい」。

## 1. 各分野における平成 29 年度の取組実績報告 【資料 1】

(※資料 1 の全体の評価と総評、各評価の C 評価について重点的に説明)

- ①農業 →②林業 (農林課)
- ③水産業 →④商工業 →⑤観光 (商工水産課)
- ⑥住宅 (建設課・住宅管財課・防災対策課・地域支援課)

## 2. 各部会からの報告 【資料 2】

- ①農業 → ②林業 → ③水産業 → ④商業 → ⑤工業 → ⑥観光 →⑦サイクリング

### (※ 水産部会報告書補足説明)

○新規就業者、所得向上、水産加工流通販売について話し合ったことを報告。

- ・新規就業者について : 市内の漁業(シラス・シイラ)は個人で行うことは適しておらず、独立創業は難しい。市内では数社の法人経営体があるので、そこで雇用される際の支援が必要。
- ・加工会社の人手不足 : 市内 7 社ある加工会社の内、半分は後継者はおらず、近いうちの廃業が懸念される。
- ・漁業の所得向上について : 漁業は農業と違い、収入の安定性に欠ける部分があり、半農半漁の生活を行っている漁業者が大半である。  
この方々を支援できるように、規制などある程度認めていただきたい。
- ・「新規就業者」、「所得向上」、「水産加工流通販売の促進」の取組が絡みあって「新規就業者の確保」に繋がると考えている旨を説明。

### 【意見・提案】

#### (委員 1)

- ① 香我美町東川地区から「水がきれいなので米作りをしたい」と意見が出ているが、市は把握しているか。
  - ・把握はしていない。対象者がどのような支援を受けたいかも含めて話を伺い、対応していく。(農林課)
- ② 物部川フェスタに参加した際、三宝山から龍河洞に抜けるルートでバスが木々に阻まれ引き返す事例があった。道の整備はされているか。
  - ・対象の道は県道であり、県中央土木の管理となっている。また、道に木が覆い被さっている等の連絡はなく、道の状況は把握していない。(商工水産課)
- ③ サイクリングの利用者が増えているが、交通事故等が懸念される。対策はしているか。
  - ・レンタサイクルについては貸し出す際に注意喚起をしているが、それ以外の方を対象とした安全教室等の実施は行っていない。(商工水産課)

- ④ あじさい祭り等を含め観光バス等を停める駐車場がない。  
その点の把握をしているか。また、それに対する支援を早急をお願いしたい。
- ・各イベント等の駐車場について調査はしていない。あじさい祭り等の季節に限ったイベントは桜の広場を臨時駐車場に充てる等の対応を行っている。(商工水産課)
- ⑤ クルーズ船に関して、今までアジア圏の方々が多かったが、今年度より欧米船の入港へシフトしたと聞いている。それに対する対応はどうなっているか。
- ・昨年度まではクルーズ船が入港する際、出店枠に空きがある時のみの出店だったが、本年度から出店に関する協議会に加入し、参加頻度の向上を図る。(商工水産課)
- ⑥ ルネサスについて、高知県が中心となり、今後、行程表等が作成されると思うが、市にも情報共有されるのか。
- ・情報共有も行われる。(商工水産課)

#### (委員長)

- ・サイクリングの交通事故のリスクは、観光に訪れた方々の対応もあるが、市民を対象としたリスクマネジメントにも繋がる。また、最終的に観光のサイクリングルートの充実にも繋がる。
- ・マナー等の取組とは別に、リスクが高い場所への対応（ハード設備）への考えはあるか。

#### (委員 2)

- ・健康サイクリング教室等では、自転車協会に来ていただき 30 分程安全教室を開催している。今後は、観光協会等が主催するサイクリングイベント等についても自転車協会の協力のもと、安全について普及をさせていきたい。
- ・サイクリングターミナルの利用者の大半はファミリーであり、レンタルされる際は注意喚起をしている。また、安芸市方面に向けた自転車道を活用される傾向もあり、利用者の危険についてはあまりないと感じている。しかし、一般の方のサイクリングについてはまだ把握はできていない状況であり、取組が必要。

#### (委員長)

- ・色々なリスク、軽微な事例から重度の事例まで具体的に調べ、可視化して、それに対してどの様に取り組んでいくかが PDCA サイクルである。危なそうだとか、アウトプットとしての交通マナーの推進（安全教室の実施のこと）も良いが、それによってどう変わったか、何が改善されたかが解らないと意味がない（アウトカム評価）ので、そこを強化していくことが求められる。

#### (委員 3)

- ・資料 1 の 14 頁のカタログ販売について評価は A だが、2,000 万の目標に 7,000 万以上の実績と言うことで、「ふるさと納税」を含めるとするならば、そもそもの目標値が低かったのではないか。H27 年度のふるさと納税は 2,100 万円、H28 年度は 4,100 万円だったと思うが、それを考えると低

い。また、この取組が「広域観光の推進」の中にあることにも違和感がある。

・「広域観光の推進」の中に「ふるさと納税」が入ることについては違和感があるが、ふるさと納税の返礼品は元々観光協会の取り扱っている「地場促商品」を中心に組み組んで来た経緯があり、現在も「広域観光の推進」に属している。

今後、どのように「地場促」を伸ばしていくかが課題であり、議論が必要。

(商工水産課)

### (委員3)

・全国で「ふるさと納税」について様々な議論が行われている。

ある町ではH28年度だが20億円を超えている。

ある町の人口は約3,000人、香南市は約32,000人でH28年度4,100万円とすると、地元の産業が受ける波及効果に大きな差が生まれているので、力を入れていくべき。

ふるさと納税は、地域産業に対する1つの入り口になっているので検討していただきたい。

### (委員長)

・委員3の言われた事はいわゆる「ベンチマーク」という考え。

全体的な中で絶対的に多い少ないと言うのは主観的で感想にしかならないが、ご当地にとって、非常に参考となる地域を「ベンチマーク」していき、「地場産品の活性化・振興」を目標とするならば、先進地の取組を実際にやっていく流れや、システムの管理できるかも含めて積み上げていくことが必要となる。

この積み上げから、どのようなものが提供でき、どのように1年を通してリレー販売できるか等のポートフォリオというか、1つの(ピボット)テーブルの様に見えることができる。

この作業を続けて行く中で、香南市各課、または農業、林業等の各部会の機運が高まり、連動していくことになる。

これをどのように消化し、反映していくかで「産業振興計画」のあり方が大きく変わる可能性がある。

・ふるさと納税の販売はカタログだけなのか。

・インターネットの活用は、当初はカタログ販売に加え、「ふるさとチョイス」を活用し、H29年度より「楽天市場」「ふるさとナビ」の活用を行っている。

・香南市は地場産品を中心に返礼品を取り扱っており、総務省の指示のもと3割程度を目安にお返ししている。(総務課)

### (委員長)

・ふるさと納税のマーケットは広い。web上に窓口があると数字は伸びていく傾向にある。

ふるさと納税は競争が激化しており、納税者も「納税」という観点ではなく、良い返礼品をゲッ

トする感覚で各市町村のサイトを見ている。

- ・ふるさと納税の評価は納税額のみを見る傾向がある。「デジタル KPI」という言葉があるが、「web上の数字を解析しながら、どこからどのようにアクセスされたのかまで明確化し、デジタル KPIを設定していくことで、数値目標である「2,000万円」という数値が適正かどうか判断できる。

#### (委員 4)

- ・カタログ販売の売上高は、平成 29 年度は前年比 101.8%となっている。
- ・ふるさと納税と地場促の商品・事業者はほぼ同じであり、今後も市・事業者と連携して業務を行っていく。
- ・ふるさと納税については市も力を入れて取り組んでいる。観光協会としても、納税してくれた方々が香南市のファンになっていただけるように、返礼品発送時には「香南市の魅力」も一緒に届ける工夫を計画している。
- ・発送件数が増加傾向にあることから、包装紙等は手間のかからないものを取り入れるだとか、商品をより素敵に見せる・伝える取組を検討している。
- ・寄付金額によって返礼品内容が違う等、事業者の手間は増えているが事業者の売上にも繋がっている。これまでの取組が下地となって対応力の向上に繋がっている。
- ・今後も市と情報共有を図り、「香南市の特産品の開発」や「新たな宿泊施設」を推進する等、様々な分野で香南市の魅力を発信していきたい。

#### (委員長)

- ・「モノからコト」という言葉がある。ふるさと納税の返礼品は「モノ」だけではなく「コト」を届けている部分もある。今後も市と連携しながら、企画し、取り組んでほしい。

#### (委員 5)

- ・平成 31 年 2 月より、ポスト維新博として「自然」をテーマとした博覧会を実施する。物部川エリアでは「龍河洞」と「ヤ・シィパーク」を拠点として、自然観光の取り組みを進めていきたいと考えている。  
その際、地域の自然をもちろん、これまで推進をしてきた「食」「文化」のリンクも必要と感じている。  
香南市は非常に自然・食・文化施設が豊富であり、是非その仕組みを来年に向けて作っていただきたいと考えている。
- ・仕組みづくりの1つとして「商店街」を活用できないかと考えている。資料で商店街の取組に苦勞されているようだが、「観光の取組」とリンクして出来ないか。  
あかおか駅やのいち駅の周辺には商店街があり、「隠れた名店」も多くあると感じている。  
「食」というワードを切り口とした、ポスト維新博に向けた「香南市としての仕組みづくり」を検討してほしい。

**(委員長)**

- ・市として、商店街の取組についてどのような協議の場を持っているか。  
また、参画されている方々はどのような方々か。
    - ・商工会の取組、香南市の取組について情報共有は行っているが、協議の場を持つ取組には至っていない。
- 今後、この仕組みづくりも積極的に行っていかなければならない。(商工水産課)

**(委員長)**

- ・委員5の提案のように、「観光」を中心に、「食」や先ほどの「ふるさと納税」や「サイクリング」の話を含め議論すると、農・林・水も携わりが生まれてくる。  
このような捉え方で協議し、「産業振興計画」を検討してきた結果が今である。  
委員5の提案を受けて、市として協議の場をワイガヤで出来るように、また、当事者としてプレイヤーの皆さんが入っていて、市がそれに対して全面的に支援を施していく形をつくれれば、タイミングとしては良い

**(委員6)**

- ・委員5の提案は市として取り組むべき。

**(委員7)**

- ・商工会では、平成29年度にバルの開催に向け、商工会の商業部会で「バル実行委員会」を組織済。
- ・会員店舗・事業者を紹介する「コミュニティガイドブック」を7年ぶりに一新する計画。  
新しいガイドブック内で「隠れた名店」も紹介できればと考える。  
このガイドブックについては、香南市民や移住を検討されている方に配布を行う計画。  
その後、観光面や地産外商の意味を込めて、近隣市町村や市外に向け発信していきたいと考えている。

**(委員長)**

- ・「観光」で訪れていきなり「移住」ということには繋がらない。  
観光から移住に繋がるまでの間には「関係人口」の取組が大きく影響を及ぼす。  
観光から移住に向けた動きの中で、より関係を密にしていく方々を「関係人口」と言うが、この関係人口を目標として取り入れることも良い。  
また、取り入れた際は、「関係人口数を増加させるにはどのような施策が必要か」「これは有効性があるのか」等も含めて検証する取組も必要である。

**(委員 8)**

- ・ 農業委員会としては、「耕作放棄地の解消」が大きな課題となっている。  
ある町では、「じゃがいも」を耕作放棄地で作付けし、ふるさと納税の返礼品として出すことで解消に繋がった事例もある。また、香我美町ではワインを作る企業に耕作放棄地を提供し、ぶどうを作付けする取組が始まっている。  
新しい分野と連携することで、新商品の提案や地域の雇用にも繋がると感じている。

**(委員長)**

- ・ ふるさと納税の返礼品でワインは多い。耕作放棄地を活かした新たな取り組みが増え、雇用等に繋がるケースもあるので検討をお願いしたい。
- ・ 耕作放棄地の問題、移住の話を含めて全て繋がっている。  
1つ1つが部会で閉じているわけではないし、取り組み自体がそこで完結しているわけではない。  
ここが非常に大切なことであるので連携などを含めて様々な取組に繋げていただきたい。
- ・ 本日いただいた意見について、既に進んでいる平成 30 年度の取組に反映できるものは反映していただきたい。
- ・ 水産業部会は報告からかなり踏み込んだ議論をされていると感じた。  
重たい課題ではあるがどうやって取り組んでいくか考えたときに、高知県の協力も相当いると思われる。

**(委員 5)**

- ・ 香南市だけの問題ではなく、高知県全体の話でもある。  
高知県の成長戦略内の「産業振興計画」の中でも、かなりつめて議論をした経緯がある。  
本日いただいたお話を水産の方にも回して、一緒に取り組んでいきたい。

**(委員長)**

- ・ 国会でも「水産業」に関しては、「成長産業」として位置づけ、漁業のあり方や漁業権のあり方等について、踏み込んだ話が開始された。  
骨太の方針の中に水産関係が出てくると概算要求の動きに繋がってくると思われる。そうなる  
と劇的に話が動く可能性がある。  
地場から声を上げ続けることが非常に大切なので、今後も高知県と連携を行い、発展的に展開をお願いしたい。

◇ 開 会

以 上